

さあ、作ってみるもん！使ってみるもん！

個別の教育支援計画（石狩モデル）「さあもん」

＜小学校版＞

～子どもたち一人一人の未来へのメッセージ～

【 記 入 例 】

石狩管内特別支援連携協議会
石狩管内専門家チーム会議

個別の教育支援計画シート I (小学校用)

～これまでの様子と現在の支援の状況～

学校名	〇〇市立△△小学校			作成年月日	平成	27	年	5	月	25	日
記入者	◇ ◇ ◇ ◇	学年	1	生年月日	平成	15	年	7	月	18	日
ふりがな	さもん げんき		性別	男	担任名	◇ ◇ ◇ ◇					
児童名	左 門 元 気				所属学級	知的障がい特別支援学級					
家族構成	父、母、兄(小5)、祖父										
主障がい	知的障がい	診断名	なし		手帳の有無	有	手帳種	療育	判定	B	

●幼稚園・保育所での様子(「個別の教育支援計画」等による引継ぎがない場合に聞き取りなどにより記入する)

内 容	支援の内容	支援の結果
遊び	・一人遊びが多いので、教師が入って学級の友だちと遊ぶ場面を設定した。	・教師と一緒にいれば、友だちと一緒に遊ぶことができるようになってきた。
生活・行動面	・トイレに行きたくなくなったら、教師に伝えてから行くようになってきた。	・勝手にトイレに行くことがなくなった。
コミュニケーション	・言葉が不明瞭なので、友だちにうまく伝わらないときは、教師が代わりに話すようになってきた。	・教師とは進んで話をするようになった。
運動・動作	・細かな作業は教師と一緒にやるようになってきた。	・少しずつではあるが、自分で作業ができるようになってきた。

●相談の記録

項 目 相談機関	時期・期間	相談内容	担 当
言葉の発達 〇〇市発達支援センター	平成23年～現在	・言葉の発達の遅れについて	■■言語聴覚士
知的発達 北海道立特別支援教育センター	平成26年	・知的な発達の遅れについて	××研究員
就学相談 〇〇市教育委員会	平成26年	・就学の場について	☆☆特別支援教育担当主査
療育手帳の交付 〇〇市保健福祉課	平成18年	・療育手帳交付申請の相談・手続き	△△保健福祉課長

●現在の支援の状況

支援機関	支援の内容	連絡先・担当
〇〇市発達支援センター	・言語訓練を行い、不明瞭な言葉が少なくなるよう指導を行っている。	住所：〇〇市××町3丁目2-1 TEL：〇〇〇-〇〇〇〇 担当：■■言語聴覚士
		住所： TEL： 担当：
		住所： TEL： 担当：
		住所： TEL： 担当：

個別の教育支援計画シートⅡ(小学校用)

～現在の様子と合理的配慮の内容～

学校名	〇〇市立△△小学校			平成	27	年	5	月	25	日	
記入者	◇◇◇◇	学年	1	生年月日	平成	15	年	7	月	18	日
ふりがな	さもん げんき		性別	男	担任名	◇◇◇◇					
児童名	左門 元気				所属学級	知的障がい特別支援学級					
家族構成	父、母、兄(小5)、祖父										
主障がい	知的障がい	診断名	なし		手帳の有無	有	手帳種	療育	判定	B	

※シートⅠを作成している場合は、上記の記入は不要です。

●現在の様子

	家庭での様子(年度始め)	家庭での様子(年度末)	学校での様子(年度始め)	学校での様子(年度末)
学習	<ul style="list-style-type: none"> 電車の玩具やミニカーで一人遊びをしていることが多い。 3まで数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 兄と電車の玩具で遊ぶ場面が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一対一で遊ぶことを好む。 平仮名は、自分の名前を読むことができるようになった。 数字は1、2まで理解しているが3以上になると難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊ぶようになってきた。 平仮名を読むことができるようになった。 5までの数字を理解できるようになった。
認知・記憶	<ul style="list-style-type: none"> 前の日に覚えていたことを、次に日には覚えていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭では年度始めの様子とあまり変化は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一度に2つのことを指示すると、1つは忘れてしまう。 写真カードなどの視覚的な支援をすることで、自分の道具をしまう場所などを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2つまでの指示なら理解して行動できるようになった。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 不明瞭な言葉があり、聞き取れないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 不明瞭な言葉が少なくなり、聞き取りやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語発達に遅れが見られ、特に「ザ行」「ラ行」については、聞き取ることが難しい。 言葉がうまく伝わらないことが多いからか、友達と話をすることを嫌がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不明瞭な言葉が少なくなり、少しずつ、話すことを嫌がらなくなってきた。
運動・動作	<ul style="list-style-type: none"> 補助輪なしの自転車に乗ることができない。 公園などに誘っても行きたがらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助輪なしの自転車はまだ乗ることができない。 父親とキャッチボールなどをして遊ぶようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 肥満傾向にあり、体を動かすことが嫌いである。 縄跳びを跳ぶことができない。 折り紙などの細かな作業が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びを5回跳べるようになった。 アイロンビーズなど細かな作業も嫌がらず取り組むようになった。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 食事はスプーンやフォークで食べることができる。 好き嫌いはなく、何でも食べる。 トイレは一人で行けるが、大便後の拭き取りが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 家では箸を使うことを嫌がる。 大便の拭き取りは、まだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレは自立しているが、決められた時間ではなく、自分がしたくなったときに行くことが多い。 食事はスプーン、フォークを使い一人で食べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレは定時排泄ができるようになった。 食べこぼしは見られるが、箸を使うことができるようになった。

●特記事項(健康上の配慮事項(アレルギーなど)・検査結果・生育暦等)

- ・甲殻類(エビ、カニなど)アレルギーがあり。食べたときにはエビペンを使用する必要がある。
- ・I QOO(田中ビネーV 実施日:平成24年3月22日)

●学校における合理的配慮の内容

	観点	支援の内容
教育内容	学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	・「適切な対人関係を築く困難さ」や「言語発達の遅れ」が見られることから、学習内容の習得の困難さを補完する指導を行う。
	学習内容の変更・調整	・基礎的・基本的な内容の確実な習得を目指し、必要に応じて学習内容の変更・調整を行う。
教育方法	情報・コミュニケーション及び教材の配慮	・視覚的に分かりやすい支援を行う。
	学習機会や体験の確保	・行事等では見通しをもった活動ができるよう、活動予定表を作成する。
	心理面・健康面の配慮	・本人の様子について家庭と連絡帳により情報交換を行う。
支援体制	専門性のある指導体制の整備	・パートナー・ティーチャー事業を活用するなどし、〇〇特別支援学校から助言を受けるとともに、特別支援教育に関する校内研修を実施し、教職員の専門性の向上を図る。
	児童、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	・周囲の児童に対し、本児童の特性を踏まえた「かかわり方」を日常の活動の中で、さりげなく伝え、理解を深める。
	災害時等の支援体制の整備	・学校の防災計画の中に支援体制を明記する。
施設・設備	校内環境のバリアフリー化	・各教室に絵文字の表示パネルを設置する。
	発達、障がいの状態及び特性に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・落ち着かなくなったときにクールダウンできる教室を準備しておく。
	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・体育館にパーテーションを準備しておく。 ・当該児童が好む玩具などを用意しておく。

個別の教育支援計画シートⅢ(小学校用)
～教育的ニーズと支援の目標～

●本人・保護者の願い		
	現在の希望	将来の希望
本人	・電車の玩具とミニカーをたくさん買って、いっぱい遊びたい。	・電車の運転手さんになりたい。
保護者	・家族や先生だけではなく、友だちと遊ぶようになってもらいたい。	・高等養護学校に進学し、卒業後は、自立した生活ができるようになってほしい。

●教育的ニーズの選定	
本人のよさ	よさを踏まえた教育的ニーズ
<ul style="list-style-type: none"> ・電車の玩具やミニカーがあると一人で遊ぶことができる。 ・聞き取ることが難しい言葉もあるが、自分の思いを言葉で伝えようとするが増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の知的発達や言語発達の状態を踏まえた学習環境や教材を整備するなどして、学習意欲を高め、発達の状態に合わせた学力や運動能力を身に付ける。 ・学級担任及び支援員の指導や支援を受けながら、教師や友だちと一緒に活動する場面を増やし、人との関わりが楽しいと感じることができるようになる。

●課題・支援の目標			
	課題	支援の目標(長期)	評価
①	・自分から他者への関わりを求めることが少ない。	・学校及び学校外において、様々な人と触れ合う中で、経験の拡大を図るとともに、より豊かな社会性を育てる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 長期目標の期間は児童の実態に応じて2～3年の期間を設定し、評価してください。 </div>
②	・文字の読み書きや数的理解に課題があり、学習意欲が低い。	・発達の段階に応じた課題を設定し、学習意欲を高める。	
③	・体を動かすことがきたいで、運動不足になりがちである。	・適度な運動や適切な活動をとおして、身体や手指の機能を高める。	

●支援内容・機関				
支援の目標(短期)	支援機関	支援内容	支援の手立て	評価: 成果(○)と課題(●)
学校及び学校外での活動場所や活動内容の充実を図り、社会性を身に付ける。 (長期目標①③)	〇〇市立△△小学校	・本児の実態に応じた、適切な教育課程を編成する。	・実際の社会体験(買い物学習や社会体験等)の機会を増やす。	○実際の社会体験をとおして、対人関係に広がりをもたせることができた。 ●教師と一緒にいないと友だちとうまく接することができない。
	児童デイサービス ◇◇センター	・放課後のレスパイトサービスを行う。	・毎週水曜日の放課後に散歩やプールでの軽運動を行う。	○散歩やプールなどの活動を嫌がらなくなった。 ●肥満傾向にあるので、運動量を増やす必要がある。
本児の発達の段階に応じた学習課題を設定し、読み書きや数量理解の能力を身に付ける。 (長期目標②)	〇〇市立△△小学校	・特別支援学校のコーディネーターの助言を受け、適切な学習課題を設定する。	・本児の観察や検査結果などをとおして、発達の段階に応じた学習を行う。	○実態に応じた課題を設定したことで、平仮名の読みや数の理解が広がった。 ●定着が不十分なところが見られるので、継続した指導を行う必要がある。
	札幌△△養護学校	・障がいの特性に応じた指導・支援の方法に対する助言を行う。	・パートナー・ティーチャー派遣事業をとおして、適切な指導支援の方法についての指導助言を行う。	○児童の実態に応じた適切な指導助言を行うことができた。 ●校内での理解をより進めていく必要がある。

引継ぎシート(小学校→中学校)

●生徒指導上の特記事項		
生徒指導上配慮すべき事項	支援の状況	支援の結果
<ul style="list-style-type: none"> ・集会活動などでは、集団に馴染むことができず、集団から逸脱してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会活動の内容を事前に伝えるなどして、見通しをもたせるよう支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせることで、集団から逸脱する場面は少なくなってきた。

●性格・行動上のよさと配慮すべき事項		
よ さ	小学校でのよさを生かした活動等	中学校での活動で力を発揮すると思われる事項
<ul style="list-style-type: none"> ・とても優しい性格で、下の学年の児童の世話を積極的に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で飼育している、金魚の世話係を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の飼育係
<ul style="list-style-type: none"> ・先生の手伝いを進んで行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習係として、プリントの配付や黒板の清掃を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の手伝いができるような係活動
配慮すべき事項	支援の状況	支援の結果
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思うとおりにならないと、物を投げたり、机を叩いたりしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興奮してしまったときには、別室に連れて行き、落ち着かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別室に連れて行き、落ち着かせると、その後の活動はスムーズに行うことができる。

●その他、中学校への引継ぎ事項
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年間、パートナー・ティーチャー派遣事業を活用して、大きな成果が見られたことから、中学校においても継続して活用し、指導や支援の充実を図ってほしい。